



みやがや

がっこうきょういくもくひょう
～学校教育目標～

じぶん み 未来をつくる子
自分を見つめ ともに

- 【知】 響き合う豊かな学びの中で 自分を見つめ ともに 探究する子
- 【徳・体】 たくましくしなやかな心と体をもち 互いを大切にし ともに けんこうな生き方をつくる子
- 【公・開】 人やまちと関わり合いながら まちに誇りをもち ともに 新しい価値をつくり出す子

「子どもたちの自慢・誇りに触れる『みやナビ』とは・・・」

校長 羽山 康和

大切そうに学習で使う材料を手にもって登校してきた子どもが、私に満面の笑顔で話しかけてきました。「校長先生、今日この材料を使って宮タイをやるんだよ。校長先生は、うちのクラスの『みやナビ』見てくれた??」と言うのです。

6月より、宮谷小学校では「みんなの生活科・宮谷タイム」の学びの様子を、保健室前や各教室前に展示しています。その掲示物を、本校では「みやナビ」と名付けました。

廊下を歩くと、子どもたちが足を止めてじっと見入る姿が見られます。友達の取組に触れ、「おもしろい」「なるほど」と感じながら互いの学びを認め合う、あたたかな時間が流れています。保護者の方も来校の折に、それらに気付くと見てくださっている様子です。

現在展示している「みやナビ」には、地域とつながりながら主体的に学ぶ子どもたちの姿があふれています。教科書には載っていない、宮谷小学校だけの素敵な学びです。毎日、「なぜ?」「どうして?」の連続です。子どもたちの頭の中に広がる問いの世界を、ぜひご覧ください。そこには、真剣に社会と向き合う姿が生まれてくる気配を感じます。

「みやナビ」は、子どもたちにとって「自分たちのクラスの自慢」であり、「誇り」なのです。自分の学びが認められ、伝わる経験は、自己肯定感の醸成につながります。互いに学び合い、高め合う宮谷小学校の姿を、これからも大切にしていきたいです。

6月4日には、「生活科・宮谷タイム」を中心とした重点授業研究会を実施しました。当日は外国語の授業も行い、子どもたちと教師がともに学びを深める貴重な機会となりました。研究を通して改めて感じたのは、「探究することの楽しさ」です。子どもたちが問いをもち、考え、伝え合う中で、教師自身も新たな発見や学びを得ていく—そんな姿が、授業の中にありました。

また、より良い授業づくりに向けて、「1単位時間に内容を盛り込み過ぎないこと」「話し合いの時間を大切にすること」、そして「前々時・前時からの学びのつながりを意識すること」の大切さを、改めて全職員で共有しました。学びは一時間で完結するものではなく、連続した時間の中で深まっていくものです。

外国語活動においても、「シンプルなフレーズを繰り返し使うこと」「やり取りの中でリアクションの一言を添えること」が、子どもたちの表現を豊かにする有効な手立てであることが確認されました。こうした実践も含め、学校全体で授業改善に取り組んでいます。

教師自身も指導力を高めるために学び、そしてその学習活動の中で子どもたちが生き生きと学ぶ。そのような理想的な学校の在り方の一端が「みやナビ」には表れていると自負しています。

学校にお越しの際には、ぜひ足を止めてご覧いただき、「みやナビ」とともに広がる学びの世界を、ゆっくりとのぞいてみてください。7月も保護者の皆様・地域の皆様の、宮谷小学校の教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。